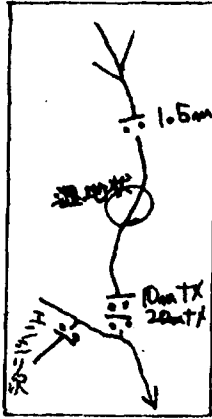


## 下ヨド沢(仮称) 1987年8月2日

L

ヨド沢の遡行を終え、ヤブをこいで下ヨド沢(仮称)の源頭に出て、10:20下降



開始。かなり濃いヤブをこいで沢に出たのだが、沢の中もまた濃いヤブ。苦勞して下る。15分程下ると、湿地状の草原となり、まもなく水の流れが出てくる。下る予定の沢を間違えたのではないかという不安にかられつつ下る。

やがて沢は急傾斜のナメとなる。慎重に下ったが、最後の2つのナメ滝のあたりで危険となり、ザイルを出して懸垂下降する。下りきった所が河内川本流であった。

この沢もヨド沢同様に、本流にかかるナメ滝だけで終わってしまった。

(記・ )

[タイム] 下降開始(10:20)→河内川本流(11:25)→河内川橋(12:20)

## エンシリ沢 1987年8月2日

L

馬尾滝沢の遡行終了後、ヤブをこくこと20分で稜線に出た。尾根の反対側はカラマツの造林地。10分で沢に降りた。

ナメ床となって、最初は平凡であったが、途中より2mくらいの滝がポツリポツリと出てくる。どれもこれもクライミングダウン可能である。

河内川本流が近くなる頃、3m、5mと滝が連続してかかり、左岸からも8m、10mと滝が落ちている。全体的に大きく陥没したような地形である。まもなく河内川本流に出て、エンシリ沢の下降は終了となる。

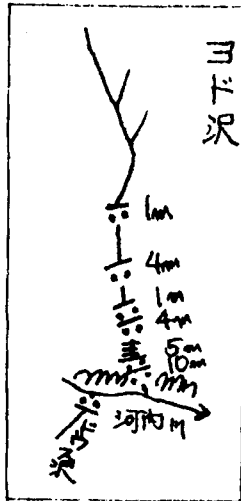
(記・ )

[タイム] 稜線(9:00)→沢(9:20)→河内川本流(9:50)

## ヨド沢 1987年8月2日

L

河内川橋から入渓。河内川本流を1時間程遡って、ヨド沢出合へ。ヨド沢は、10m程の滝をかけて河内川本流に合流している。ヨド沢の遡行は、この滝を越えることから始まるが、これがなかなかの難物。左岸に切り立った側壁が続いているためである。この側壁を少し登ってから、上部の立木めがけてザイルを投げ、



これを頼りに樹林帯に入り込み、滝の落口へと抜ける。岩がモロく、ホールドも少ないために、この滝を越えるだけで35分もかかってしまった。

すぐにまたナメ状の滝が出る。5mくらいだが、水量は少ない。その後もナメ状の小滝が続く。やがてナメ床が倒木ト土砂で埋まるようになる。伐採の時のものか、ワイヤーなどもかなり残っていた。

やがて水も溜れ、ヤブがかぶさってくる。右手の支沢に入り、下ヨド沢(仮称)の下降に移る。 (記・1)

[タイム] 河内川橋(7:10)→ヨド沢出合(8:15)→遡行終了(9:40)

## ドウス沢

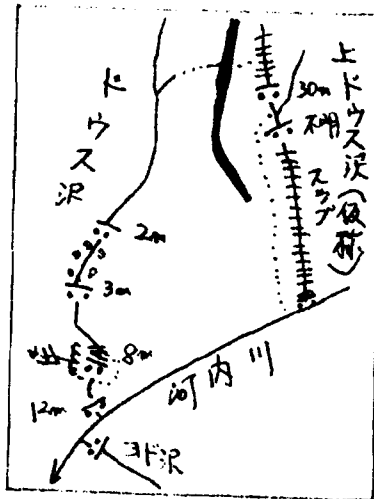
1987年8月2日

L

河内川橋から1時間程でドウス沢出合。8:20、ドウス沢は、出合よりいきなり12mの滝をかける。水量は少ないので、ウェディングシューズのフリクションをきかせて直登する。そのあと5分程で、今度は8m直瀑。ここは登れず、左岸を捲く。このあと小滝を過ぎると、流水が多くなった。

9:25左岸に枝沢を確認する。なおも本流を遡るが、本流はこの先30分程で水の流れもなくなった。10:00遡行終了。確認しておいた枝沢まで戻り、それより尾根に出る。 (記)

[タイム] ドウス沢出合(8:20)→遡行終了(10:00)



## 上ドウス沢(仮称)

1987年8月2日

L

10:40ドウス沢の遡行を終えて、尾根に出る。尾根には伐採用の作業道があった。10分間休憩してから、下降に移る。11:00上ドウス沢(仮称)に出る。そこから5分も下降しないうちに、30m程のナメ滝。これを半分ほどクライミングダウ